



後援会会長 山本 和宏

後援会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は、後援会の活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。新しくご入会頂きましたご父母の皆様にも、後援会活動にご協力いただきますようお願い申し上げます。

さて、第一薬科大学はまもなく60周年を迎えます。卒業生たちも、第一薬科大学の看板を背負って、薬剤師として立派に社会に貢献し、各方面で活躍していると聞いており、大変うれしい限りです。学生たちを医療人として立派に育て上げ、社会に送り出していただいた大学ならびに職員の方々に深く感謝申し上げます。また、同窓会「一薬会」とも連携し、各種イベントに参加しておりますが、卒業生、大学ならびに職員の方々そして後援会が協力して、学生たちをバックアップすることで、第一薬科大学が、社会に貢献し更に発展していくものと確信しております。

私も30数年前本学を卒業し、現在開局薬剤師をしておりますが、その頃とは、薬剤師の業務は激変し、「物から人へ」、「調剤から介護へ」とシフトしつつあります。そして近年、医療臨床の現場における薬剤師に求められる内容は、一層専門化かつ高度化しており、職責も多岐にわたるようになってきております。薬局薬剤師は、地域に根付いた健康サポート薬局となるべく、使命を全うする有用性が求められ、病院薬剤師は、医療チームの一員として、患者さんに安心・安全な満足度の高い医療の提供が求められております。また、団塊の世代が後期高齢者に達する2025年問題を前に「地域包括ケアシステム」の中での薬剤師の評価は高まっております。薬剤師には幅広い医療および薬学に関する知識はもとより、高いコミュニケーション能力、多職種と連携する力が求められており、これらの要求に応えられる人材育成を支援することも後援会の役割だと考えております。

今年度から第一薬科大学後援会がより活性化されるよう、本部役員が他の支部総会に出席し、会員の皆様の声を聞かせていただくことになりました。後援会が今後も発展していくために、大学・同窓会・後援会の協力体制を強固なものにして、会員の皆様と一緒に、学生が勉学に励めるような環境造りをするとともに、学生たちを立派な医療人として社会に送り出していけるような活動をしてまいりたいと思います。今後ともより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。